



2025 明治安田 J3 リーグ 第 7 節
3/29 (土) 14:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

松本山雅

順位表 3/23現在 基本 6 試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

注：＊印は消化試合が数字分少ない

1	FC大阪	13p	+3	6	3	A△
2	栃木 C	13p	+2	8	6	
3	鹿児島	11p	+5	12	7	
4	奈良	11p	+2	10	8	
5	宮崎	10p	+2	8	6	
1*6	北九州	9p	+3	6	3	HO
1*7	長野	9p	+1	7	6	
8	讃岐	8p	0	5	5	
1*9	八戸	7p	0	6	6	H●
1*	金沢	7p	0	6	6	H●
11	栃木 SC	7p	-1	4	5	
12	群馬	7p	-2	9	11	
1*13	福島	7p	-2	8	10	A●
14	相模原	7p	-3	5	8	
1*15	沼津	6p	+2	4	2	
2*16	松本	5p	+1	4	3	
17	高知	5p	-2	7	9	
18	鳥取	5p	-3	4	7	A●
19	琉球	4p	-3	3	6	
20	岐阜	4p	-5	7	12	--- ---

次回HomeGame

第 9 節 vs. 栃木 SC

4/13 (土) 14:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後 3 時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩 3 分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
＜定休日：日曜・祝日＞
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 19 試合（J2：12 試合、J3：6 試合、天皇杯：1 試合） 岐阜 5 勝 / 松本 10 勝 / 4 分け J リーグ岐阜ホーム戦：2 勝 1 分 6 敗		
直近の対戦結果	2024/08/31 岐阜 0-1 松本 J3 - 26 節 @ 長良川		
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/03/23 J3 - 06 節 @ A x i s 鳥取 3-0 岐阜 2025/03/20 ルヴァン杯 @ 長良川 岐阜 0-2 横浜 FC 2025/03/16 J3 - 05 節 @ 長良川 岐阜 1-2 金沢	松本 2025/03/26 ルヴァン杯 @ サンアル 松本 1 (延長) 0 鳥栖 2025/03/23 J3 - 06 節 @ サンアル 松本 2-0 相模原 2025/03/09 J3 - 04 節 @ いちご 宮崎 0-0 松本

●シーズン序盤から混迷を見せてしまう、2025 年の FC 岐阜。3/20（祝）ルヴァン杯 1 回戦・横浜 FC 戦では、新しい選手の起用でチームが活性化したが、J 1・横浜 FC の選手の個人技にやられて失点を重ねてしまう。結局 0-2 で敗戦、今年のルヴァン杯も 1 回戦で姿を消すこととなってしまった。そしてリーグ戦に戻った 3/23（日）第 6 節・アウェイ鳥取戦は、これまでと大きくスタメンを変更した岐阜だったが、やはり得点を奪えずに時間が経過してゆく。後半 19 分にセットプレーで失点すると、後半 24 分には自陣ゴール前で連携ミスで 2 失点目。攻勢をかける岐阜だったが、さらにカウンターで失点し、0-3 で敗戦。

これでリーグ戦 3 連敗を喫した岐阜は、ついにクラブ史上初となる、J 3 最下位に転落してしまった。JFL も開幕したばかりだが、J 3 ライセンス保有クラブが JFL 16 クラブ中 5 つある状況なので、このままの順位では JFL の結果次第で J 3 会員資格自動喪失（JFL 降格）になる。もちろん、まだ第 6 節を経過した段階だし、まだ首位・FC 大阪との勝点差は 9。これからの巻き返しは十分に可能だが、それでも早急に手を打たないと、取り返しのつかない事態にもなりかねない。チーム・フロントそして僕らサポーターも一丸となって、この危機を脱するため、危機感をもって全力で臨む必要があるだろう。そして重要なのは、目の前の 1 試合を、勝利のためにチームとして 90 分間最後まで全力で戦う姿勢だ。その努力の積み重ねこそが、チームの不調を解消する最短の道に繋がっているはずだ。まずは、今節のホーム戦で、その全力で戦う姿勢をしっかりと僕ら岐阜サポーターに見せて欲しい。

さて、今節の対戦相手は松本山雅 FC。J 3 での 3 年目だった昨季は 4 位、J 2 昇格プレーオフ決勝の後半 AT で、目の前にしていた昇格を逃して涙をのんだチームだ。そして今季は、2 年間コーチを務めていた早川知伸氏が監督に昇格するなどスタッフを刷新しつつ、主力選手の多くが残留。現在の成績は 16 位だが、松本は 4/26（土）に第 1 節が予定され、また 3/16（日）に予定されていた第 5 節・ホーム長野戦が積雪の影響により中止となったので、消化試合数が 2 つ少なく、現時点では単純な成績比較はできない。一方で、前節にはホーム戦で今季初勝利を挙げており、勢いのある状態で隣県・岐阜の長良川に乗り込んでくると思われる。

松本とのリーグ戦での通算対戦成績は、岐阜の 4 勝 4 分 10 敗・15 得点 21 失点。昨季の対戦では、3/31（日）第 7 節・アウェイ戦は、前半を 1-1 で折り返し、後半 AT に #24 栗飯原尚平が決勝点を挙げて 2-1 で岐阜の勝利。しかし 8/31（土）第 26 節・ホーム戦では、お互いに決定機を決めきれないシーンが目立つ試合で、セットプレーでの 1 点を守り切った松本が 0-1 で勝利。苦しいチーム状態の岐阜、しかも難敵が相手だが、何としても勝利をもぎ取るべく奮闘して欲しい。

松本で最も警戒すべき選手には、#10 菊井悠介を挙げる。#10 を背負いキャプテンも務め、パスでもドリブルでも試合を組み立て、かつシュートも撃つ松本の中心選手だ。彼を自由にさせないことが、松本攻略の第一歩だろう。また、#11 浅川隼人は 2 年連続で J 3 二桁得点のストライカー、そして、J 通算 400 試合を超えるベテランの #15 山本康裕にも要注意だ。また、今季から松本に期限付き移籍している #19 杉田隼は 2023 年には岐阜に期限付き移籍しており、この対戦に懸ける気持ちが強いだろう。一方の岐阜も、#7 中村仁郎が昨季は松本に期限付き移籍して 12 試合に出場しており、古巣相手の活躍に期待したい。

課題が山積しつつ、結果が出ずに苦しんでいる今季の岐阜。しかし、ここがどん底だと割り切り、後は上を向くだけでポジティブになるしかない。若い選手も多い今季の岐阜は、こういった状況で迷いも出てしまうだろう。そんな選手たちの背中を力強く押して、一歩前に踏み出させるのが、僕ら岐阜サポーターの拍手や声援のはずだ。今節も、タオマフやゲーフラ、フラッグなどでスタジアムを緑に染めて、最後まで選手たちを鼓舞しよう。時には叱咤激励しながら、勝利を信じて選手たちと共に戦おう。そして今節こそは、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT” を、このホームスタジアム・長良川に響き渡らせよう。（ささたく）

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【ルヴァン杯】岐阜 0-2 横浜 FC

●今年で2度目のルヴァン杯。今年の対戦相手はJ1・横浜FC。まあ今季J1に復帰したチームだし……と思っていたら、僕らが中3日なのに横浜FCは中4日。しかも僕らは中2日で次の試合なのに、J1は国際Aマッチデーで週末に試合がない。いくらウチのホーム開催とはいえ、この逆ハンデは非常に厳しいです……（溜息）。そして、相手もターンオーバーしてきたんだけど、それでも#13小川慶治朗がスタメンにいるとか、やっぱりJ1様はメンバーが豪華だねえ（苦笑）。さて、最初からボコられるかと思った試合だけど、予想外（？）に岐阜が健闘。この試合で起用された選手たちの多くが、結果を出そうと良い動きをしていたのも理由だろうし、5バックに変化する戦術を採用したのも良かったと思う。ただし、攻撃は相変わらずというか当然というか、横浜FCには通用しない。全体としては良い流れが作れているかなと思ったのも束の間、わずかな隙を突かれ、シュートを撃たれて失点。ワンプレーで局面を変えることができるのは、やはりJ1。その後も、個人技で裏に抜けられてシュートを撃たれて2失点目、そして前半終了。後半には選手を入れ替えて攻撃を活性化させようとする岐阜だったが、やはりJ1・横浜FCには通用しない。というか、選手交代で選手の調子を試しているような、ホントに練習試合かと思ってしまうような“あしらい方”を、横浜FCにされたような……（苦笑）。結局、0-2で敗戦。J1・横浜FCの貫禄勝ち。収穫もあった試合だと思うので、結果には納得。ただ、6年前には、J2で対戦してたんだよねえ……（溜息）。

さて、この試合の最大のお目当ては、多くの岐阜サポが#20村田透馬だったろう（僕もそうだ）。あれだけ事前に煽っておいて、横浜FCが出場させなかったら……でも、『カズ来る来る詐欺』の本家なので（笑）。2年ぶりにピッチで見る彼は、やっぱり岐阜にいたときよりも成長していて、頼もしく見えた。こういう再会は、嬉しいものです。（ささたく）

●キックオフ1時間前までくらは風もなく暖かったんだけど、それ以降は、若干の肌寒さが。まあ、「寝たら〇ぬゾ？」というほど寒くもなかったが、だからといって寒くなかったと言えるような内容ではなかったなあ。キックオフからしばらくは「お、なんか、案外、ヤレてるんじゃない？」と思ってたけど、横浜がずーっとテンションが変わらなくてね。関根が黒まわしに胸を貸してやってるみたい。な。「横浜サン、遠いトコロに行っちゃったんだねえ……。」というのが感想かなあ。お互いにターンオーバーかと思ってたら、代表ウィークでウチらより上のカテゴリーはお休み。しかし、なんで、小川慶治朗がいるんだよ！神戸じゃないのか？とか、交代で伊藤翔が出てくるとか。そういう大看板だけじゃなく、横浜の選手の余裕あるプレーに心の中で頷いてみたり。うん、こういう試合なら『格』を語ってもいいよね。違いを見せつけられたよ。その中でトーマがフル出場。キレのある動きを見られたのはよかった。

最後になりますが、吉田勝利さん、冠試合ありがとうございました！これからも、よろしくお願いします。（ぐん）

●中3日で2カテ上の相手とカップ戦。とはいえ、いまの岐阜はチーム状態が最悪（今季当社比）、「格上を喰ってやるぜ!!」と意気込める状況では全然ない。まずは目の前の、足元のあれこれを片付ける時。チームもそれをわかっているのか、全とっかえとは言わないまでもちゃんとターンオーバーは敷いてくれたし、大串、キムくん、ハコちゃんと新戦力も出来ることはやってくれた。特にキムくんは3バック化の試験としては及第点でしょう、実際に少しの時間では3バック（というか5バック）を試してもいた。そんな中、コーダイがスタメンだったのは著しく驚いた。「中盤の後ろで刈ってくれる選手」としてのコーダイの価値の高さ（というか、おそらく他にいない）なのだろう……とはいえ、この試合では休ませてほしかったところ。

試合開始から横浜FCは「ぼくたち、ネジなんて巻いてません」感がアリアリ、ネジ巻かなくても2カテ下ならなんとかなっちゃう。相手は天下のトップカテ様だ。『格』とはカテゴリーのこと、まさに格上に格上の試合をされたのだから、受け入れるしかありません。

で、横浜FCといえば「トーマは岐阜が育てた」と言ってもいいんじゃないか？の村田透馬。カップ戦ではあるけど、フル出場ですよ。すっかりJ1リーガー様の貫禄になっちゃいやがって……。試合前には横浜FC系のウェブマガジンで「岐阜でお勧めのウマイ店」も紹介してくれてた。ずっと岐阜のことを好きでいてくれ。そんで、J1でタイトルの1つでも獲ってこい!!（エール）

岐阜がJ1勢に唯一の勝利を挙げてから16年（2009年の天皇杯@熊谷、1-0）が過ぎた。いつかは、もう一度格上を倒したいものですね。（吉田铸造）

【第6節】鳥取 3-0 岐阜

●3/23、鳥取県鳥取市にあるAxisバードスタジアムで行われたガイナレ鳥取×FC岐阜の試合は、3-0で鳥取の勝ちとなりました。後半開始から北龍磨選手の代わりに出場した横山智也選手が鳥取のワンサイドになった全てだったのかなあ……。

横山選手は、北選手に変わって出た理由を噛みしめてほしい。自分でイニシアティブを取って引っ張っていくのが目的だったはずで、周りに引っ張られて行くふうじゃないはず。2失点目に至るシーンは、横山選手はすぐ引いてしまうのではなく、自身が動いて止める素振りを見せていれば、恐らく失点劇は防げたんじゃないかと思って見ていました。そう考えると、本来このポジションにいるべきは、彼ではなくて、山田直輝選手だったんだなあ……。ホント、どうしちゃったんだろう？

5バックも結局機能していない。まだルヴァンから始めて2度目だから……という『言い訳』もできるんだろうけど、守備陣大崩壊を見てしまうと、正直5バックもアカンのじゃないのと思えてならない。動かないとダメ。でも、ただがむしやに動くのもダメ。動くことに目的を持ってやってほしいですね。

試合後には、小松裕志社長・竹元義幸スポーツダイレクター・大島康明監督が来て、現状を話してくれました。いわく、組織としての風通しもいい・選手も昇格のために働いてくれていて練習は（小松社長が就任してから見てきた中で）一番ハードだそう。要は成果が出ていないらしい。今後、しばらくは我慢せざるを得ない状況が続くことになるのでしょうか。監督・フロント側の想いは、よ〜くわかりました。ただ、一つ言わないといけないのは、早く結果を出さないといけないこと。このままズルズルと負けていいというわけではなく、どこかで必ず自分達のビジョン（出せていない成果とも言う）を形にしないとイケない。それができないと、また今回のような事態になりかねない。ゆえに、選手達は監督・フロントの思いに対し、報いてほしいものです。私達も微力ながらあなた達を押していきますから……。 （アレックス）

●ルヴァン杯の敗戦は仕方ないとして、リーグ戦に戻れば再び勝利を掴みたい岐阜。しかし、スタメンは金沢戦とかなり違った。これは、ルヴァン杯で動きが良かった選手を早速起用した（でも中2日ですよ？）と考えるべきなのか、それとも（実は）怪我人が多いのか、それともリーグ序盤は若手起用で経験値を積ませる作戦（ターンオーバー）？大島監督の、チームを改善しようとする意図は感じられるんだけど、今回は何だか少し違和感がありました。

そして、この試合でも攻撃が機能しない。#23萩野滉大が1列落ちて5バックになるのは効果的かなと思うけれど、それだとボランチ辺りが手薄になってしまう。最初から5バックにした方が、戦術も整理しやすいんじゃないのかしら。そして、

ドウドウ選手が加入しました

●『『岐大通』の編集作業が、いま着々と進められていた』（『球辞苑』OP 風）なんて時に舞い込んできた補強情報。昨季でJ2千葉を退団していたドウドウ選手の加入。岐阜のブラジル人選手は2022年のフレイレ、ヘニキの両選手以来だ。『岐大通』に投稿される方は、今季の岐阜について「火力不足」を指摘されることが多かったのも、外国人FWの補強は「クラブもわかってくれてたんだ」という感じに受け止めます。まあ、そりゃわかるよね（苦笑）。これまでカップ戦を含めて7試合で7得点、しかもFW登録の選手が得点したのは開幕戦のササカイと第4節のあいちゃんだけなんだもの。

ドウドウ選手についての個人的な思い出は2023/7/15の岐阜vs今治@長良川。それまで16試合で8ゴール、直前の沼津戦でもゴール、その前の長野戦ではハットトリックまで決めた彼がベンチにもいなくて、「何があったか知らないけど、これはとてつもないチャンスでは?!」と喜んだもの（結果は2-2のドロー）。その2日後に今治から千葉への移籍が発表され、「ああああそういうことだったのね〜」と。移籍手続きがもう少しでも遅かったら、どうなっていたことか（震え）。彼は2014年に柏に加入。ちなみに柏には登録名『ドウドウ』の選手が合計3人いる。実は4人になりかかった時もあるけど、4人目の加入時にはチームに3人目のドウドウがいた（笑）ため、後から加入のドウドウの登録名はエドゥアルド（現：長崎）。で、岐阜に来たドウドウは「2人目」。柏を退団後は一度ブラジルに戻るも、再来日してから甲府→福岡→甲府→町田→今治→千葉と日本チームを渡り歩いている。日本語でのコミュニケーションも大丈夫なんじゃないかな（今治サポや千葉サポからは聴いてないけど）。さあ、反攻の狼煙が上がった! となってほしいところです。（吉田鑄造）

FW3枚がそれぞれの位置で張っているんで、この試合でも運動性に欠け、すぐにボールを失って守備の時間が長く続く。もちろん、ボール保持は勝つための手段であって目的ではないし、ボール保持率が低い方のチームが勝つことも、良くある話だ。だけど、今の岐阜からは、そういった選択ではない雰囲気漂う。デュエルに負けることが多いのも、何か練習方法に問題があるのかも疑ってしまう。そして後半19分にCKからのボールを決められてしまうと、後半24分には、自陣G前での自分たちの連携ミスから2失点目（溜息）。またしても、5分以内での複数失点。あれは、ちょっと考えられないプレーだったし、もしかしたら『失点しちゃいけない』っていうプレッシャーが、逆に失点を呼んでしまうのかも思ってたぐらいだ。まずは1点をと前掛かりになる岐阜だったが、逆に試合終盤にカウンターを浴びて3失点目。0-3での敗戦、しかもシュート数はわずか6本で、CFの#11佐々木快はシュートゼロ。そりゃ、勝てるわけがない。アウェイとはいえ、こんな絶望的な試合を見せられるなんて……でも、そういえば去年の9月にも讃岐で、とんでもなく酷い試合（0-4で敗戦）を見せられてたわ（苦笑）。その1ヶ月後には、信じられないV字回復の快進撃を見せたんだ。今も、その雌伏の時期だと信じたい。（ささたく）

●Axis バードは二年ぶり。スタジアムに着いたら、新しいチャントのお披露目と練習をやってたんだけど、コレはイイ感じのヤツだねえ。ソレを歌いながらみんながゴール裏に戻って行くのを見届けた後で、「この場所だったな。最後に言葉を交わしたのは……。」と感慨に浸ったりもして。あれから二年か。いい結果が欲しかったんだけどね。なんというか、ソフトな表現をすれば『牧歌的な試合』かな？

前半が始まって、しばらくしたら、「あ、コレはミスの回数が相手より多い方、でもって、より致命的なミスをした方が負けるヤツ。」と思って観てたんだけど、得てして、そういうのはヒイキしてる方がやらかすんだよね。

ただ、1点めはともかく、2点めがなんともね。アレもふだんなら『安全第一』を躊躇いなく選んでるんだろうが、1点ビハインドという状況だけに、なんとか繋げてカウンターに……とかいう意識があったのかもしれないね。

この試合の結果、ついに最下位。単独はもちろん、並んでの最下位もこのカテゴリーでは初めてのハズ。厳しい状況は続くけど、まだ、始まったばかりだから。そして、『下剋上』を起こすには願ってもない位置とも言える。ひとつ、ひとつを丁寧に。選手達を鼓舞していかなきゃね。（ぐん、）

●監督はここ最近の戦いぶりに「守備の時間が長過ぎる」と言っていたそうだけど、その理由が「攻撃が機能していないから」という認識はありますか？と訊ねたいところ。

これまでの監督と違って「修正する」意志があるのはいいんだけど、「正しい方向に修正されているのか?」「修正の手が付いていないところ（『落ちてこない1TOPのFW』とか）は、そのままで問題ないのか?」という点は、ちょっと不安。アニメ『宇宙戦艦ヤマト』で、目的地・イスカンダルに到着したと安堵したところで攻撃を受け「我々はイスカンダルではなくガミラス（敵の星）に来てしまったのではないのか?」とクルーが疑問を持つシーンを思い出してしまう。

この修正は正しい方法（戦術）にたどり着くんだよね? そうだね? というところなんだけど、本当のところはどうなんでしょう。このメンバーで戦う（＝結果を出す）サッカーはどれがいいのか? というのは、そろそろ見つけてしっかりチームに落とし込んでいかないと、残留争いの主役になってしまいう……どころか、残留争いの独り芝居にだってなりかねない。もう「残留してくれればいいです」なんて言いませんよ。「残留してください」。お願いします。（吉田鑄造）